

さいたま市長定例記者会見

令和4年10月27日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 それでは、定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社、埼玉新聞さん、進行をよろしくお願ひします。

○ 埼玉新聞 10月の幹事社を務めます埼玉新聞です。よろしくお願ひいたします。

 それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願ひいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

 通りの木々が少しずつ色づき、散策が楽しい季節となりました。私も公務のないときは見沼田んぼ周辺を散策しておりますが、実りの秋を迎えて、農家の皆様が収穫をされている様子をよく目にするようになりました。

 さて、本市では、地元で生産された農作物を地元で消費する地産地消に取り組み、この一環として、毎月1回さいたま市役所ロビーで地元農産物の即売会を開催しております。私も購入させていただくことがありますが、新鮮な野菜などを直接購入できるだけでなく、普段とは一味違うおいしい食べ方や長持ちさせる方法などのお話を農家の皆様から直接聞けることも楽しみの一つです。来月は、14日に南区役所、28日に市役所で即売会を予定しているほか、19日には、3年ぶりに見沼グリーンセンターにおいて農業祭を開催いたします。市民の皆様には、ぜひ各会場に足を運んでいただき、市内の農業の魅力を感じていただければと思います。それでは議題に入ります。

市長発表：議題1「新型コロナウイルス感染状況とワクチン接種状況について」

 議題1「新型コロナウイルスの感染状況とワクチン接種状況について」説明します。

 まず、最新の本市の感染状況です。先週1週間の新規陽性者数は1,964人で、前週と比較すると約1.05倍です。増加幅は小さいも

の約2か月ぶりに増加に転じました。

日別の新規陽性者数について、この左上のカレンダーを御覧いただくと、赤枠で囲ってあるところが前の週の同じ曜日を上回る発生が確認されている日です。

本市の感染状況は、長期にわたり続いてきた減少に下げ止まりの傾向が見られる状況であり、この下がり切らない状況のまま次の感染拡大につながる懸念もあることから、引き続き警戒感を持って感染動向を注視してまいります。

次に、全数届出の見直し後一月が経過しました。本市では、発生届対象外の方の陽性者登録について、これまでも様々な媒体で周知に努めてまいりましたが、継続的な周知によってさらなる登録の促進を図るためこちらの啓発用ポスターを作成しました。本日から市内の医療機関や公共施設等で順次掲出します。急な体調変化の際の備えとして、陽性判明後はぜひ登録していただきますよう改めてお願い申し上げます。

次に、本市の新型コロナワクチン接種状況について説明します。本日からオミクロン株対応ワクチンの接種状況について説明します。10月27日時点でのオミクロン株対応ワクチンの接種済数は6万918人、接種率は5.1%です。

次に、オミクロン株に対応したワクチンの接種間隔の短縮について説明します。10月21日にワクチンの接種間隔を短縮され、従来型ワクチンを2回以上接種し、最終の接種から3か月以上経過した12歳以上の方は、オミクロン株に対応したワクチンを接種することが可能となりました。

これを受けて、本市では一昨日10月25日からこちらのオレンジ色の封筒で(5回目接種用クーポン券を)送付しています。また、3、4回目の接種用クーポンにつきましても、最終の接種から3か月が経過したらお手元に届くように11月1日発送分からはスケジュールを前倒しして発送してまいります。オミクロン株対応ワクチンは、3から5回目のいずれかの接種用クーポン券をお持ちであれば、接種を受けることが可能です。11月は、4回目接種を受けた多くの高齢者の方に5回目接種用クーポン券が届き、オミクロン株対応ワクチンの接種が受けられるようになります。お手元に届いた方は、ぜひお早めに接種をお願いします。

次に、予約代行窓口の開設について説明します。高齢者の方への接種用クーポン券の発送が本格化する時期に合わせて、11月1日から11月30日までの間、市内の商業施設18か所において、予約の代行窓口を開設します。前回に引き続き、身近なスーパーなどに開設を予定していますので、インターネットでの予約に不安がある方は、お気軽にご来場ください。その際、接種用クーポン券が必要になりますので、必ずお持ちください。なお、施設によって開設日時が異なりますので、詳しくはさいたま市のホームページでご確認ください。また、区役所や一部の図書館、公民館など市内31か所の公共施設内に開設している相談窓口でも、予約の代行が可能となっているので、ぜひこちらもご利用ください。

最後に、この冬における新型コロナウイルス感染症についてですが、専門家からは新型コロナウイルスと季節性インフルエンザが同時流行し、第7波より多くの発熱患者が生じる可能性が示されています。そこで、次の感染拡大に対する備えとして、市民の皆様には3つのお願いがあります。1点目は、基本的な感染防止対策、これは状況に応じたマスクの着用、3密の回避、小まめな手洗い、換気です。2点目が新型コロナウイルスワクチンの接種、そして3点目は季節性インフルエンザワクチンの接種、この3つをぜひお願いします。少しでも感染拡大を抑えるために市民の皆様には基本的な感染防止対策を継続いただくとともに、感染が拡大してしまう前の新型コロナウイルスワクチンの早期接種をご検討ください。また、インフルエンザワクチンの予防接種は、高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられることから、予防接種法に基づく定期接種の対象となる方で接種を希望する方は、早めの接種をご検討ください。なお、高齢者等に対するインフルエンザワクチンの定期接種は、昨年同様10月1日から開始しています。新型コロナウイルスワクチンとの同時接種も可能です。

さらなる感染拡大を乗り越えていくために、本市のみならず市民や事業者等の皆様のご協力をいただき、一丸となって感染防止対策に取り組んでいただきたいと思います。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

市長発表：議題2「さいたまサステナブル都市サミット～E-KIZUNAグローバルサミット～を開催します！」

続きまして、議題2「さいたまサステナブル都市サミット～E-K I Z U N Aグローバルサミット～を開催します！」について説明します。

来月「さいたまサステナブル都市サミット～E-K I Z U N Aグローバルサミット～」を開催します。「持続可能な都市の実現に向けて、今、私たちがすべきこと」をテーマとし、会期は11月22日から11月24日の3日間で、会場は、パレスホテル大宮とその周辺です。開催方式は、登壇者の一部がオンラインで参加するハイブリッド開催方式を取らせていただきます。また、会議の様子はライブ配信を実施します。ライブ配信はどなたでも視聴いただけます。

また、開催に当たりまして、23の企業から協賛をいただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

次に、グローバルサミット開催に至る経緯についてお話をさせていただきます。さいたま市では、2009年から電気自動車普及施策「E-K I Z U N A P r o j e c t」を推進し、運輸部門からの二酸化炭素排出を削減するための取組を進めてきました。本プロジェクトの一環として、脱炭素社会を目指した都市間のネットワークを構築するため国内の企業、自治体に参加する「E-K I Z U N Aサミット」をこれまで9回開催してきました。

今回のグローバルサミットは、この「E-K I Z U N Aサミット」を発展させたものになります。開催に当たりましては、本市と協定を締結しているイクレイに共催いただいています。イクレイとは、持続可能な社会の実現を目指す世界的な自治体ネットワークです。

御覧のとおり、本市は脱炭素社会の実現を目指し、これまで様々な施策に取り組んできました。しかしながら、環境への負荷は年々深刻になっており、持続可能な都市を実現していくためには国レベルだけでなく自治体レベルでも今まで以上にしっかりと取り組んでいく必要があります。私は、これまでのサミットで培った国内のネットワークを発展させ、国外の都市とも連携していく必要があると考えています。本サミットは、国内外の都市や企業が取り組んでいる効果的な政策や知見について意見交換を行い、パートナーシップを強化することにより、脱炭素社会の実現にも寄与するサミットとして開催したいと考えています。

こちらがサミット全体のスケジュールになります。詳細は、後ほど説明します。まず、1日目の午前には教育委員会所管のプレイベントを実施します。午後にサミットの開会式を行い、基調講演、全体セッションを行う予定です。2日目は、午前と午後にそれぞれ3つの分科会を開催します。分科会終了後にはクロージングセッションを実施し、さいたま市宣言として取りまとめを行う予定となっています。最終日となる3日目にはテクニカルツアーを実施します。

それでは、サミットの見どころを詳しくご説明します。まず、1日目のプレイベントとして、教育委員会所管の「さいたまSDGs子どもフォーラム」を開催します。市立学校の児童生徒が一堂に会し、持続可能な未来の実現に向けたディスカッションを行うものです。なお、フォーラムでは市内の代表となる4校が日頃の取組について発表します。また、この4校の代表生徒それぞれ1名と教育長とが「私たちがつくる！持続可能な未来」をテーマにディスカッションを行います。子供たちの目線で議論される「持続可能な都市の実現のために今私たちがすべきこと」にぜひご注目ください。

続きまして、午後からは開会式に続き、基調講演と全体セッションを行います。基調講演では、持続可能な都市の実現に向けて世界と国内の動向についてお話をいただきます。イクレイ世界事務局長には国際的な動向を、またIGES理事長には国内の動向を、直前に開催されるCOP27の状況も踏まえて講演をいただきます。また、全体セッションでは、イクレイ日本事務局長をモデレーターとしてお迎えし、意見交換を行います。国、あるいは自治体間で連携しながら持続可能な社会の実現に向けて、主体的に取り組むことの重要性について議論してまいりたいと考えています。

次に、2日目は、本サミットのメインとなる分科会を実施します。エネルギーやモビリティなど持続可能な都市に関する6つのテーマについて各都市や企業の取組を紹介し、今後取り組んでいくべき政策について意見交換、情報共有を行います。午前の分科会①と午後の分科会④では、私も登壇し、持続可能な社会を実現するための本市の先進的な取組を発信する予定です。

各分科会のファシリテーターにはエネルギー、モビリティなどを専門分

野とする大学教授やイクレイ日本事務局長、IGESの上席研究員などをお招きしています。また、海外からは、クアラルンプールをはじめとした都市が登壇します。国内からは、本市と連携協定を締結している松山市、E-KIZUNAプロジェクト協定を締結している日産自動車やトヨタ自動車などの都市・企業が登壇することになっており、ハイレベルなセッションが展開されると期待しています。さいたま市は、全ての分科会に登壇する予定です。

続きまして、サミットの最終日となる3日目は、登壇者向けにテクニカルツアーを実施します。視察先としている美園地区では、先月アメリカの環境保護庁長官にも視察いただきました本市のスマートホーム・コミュニティ第3期モデル街区を視察いただきます。また、おもてなしの一環として、世界で初めての公立の盆栽美術館である「大宮盆栽美術館」を御覧いただきます。盆栽は、海外の方にも人気が高く、ぜひ実物の盆栽を見ていただき、日本の伝統文化も楽しんでいただきたいと思います。

サミットの1日目、2日目にはサイドイベントも実施します。本サミットに協賛いただいた自動車メーカーによる次世代自動車や企業によるサステナブルな技術が展示されます。どなたでも入場できますので、ぜひ多くの皆様にご来場いただきたいと思います。

また、11月23日には鐘塚公園、ソニックシティイベント広場で「環境フォーラム」を同時開催します。コロナ禍によって、会場での開催は令和元年以来3年ぶりの開催となります。地域、学校、事業者が日頃の環境に対する取組についてのパネル展示や活動紹介、体験型ブースなどが設置されます。イベントを通しまして、多くの人に環境について関心を持っていただき、身近なところから行動を始める機会としてください。

また、スタンプラリーを2つのイベント合同で行います。会場の各ブースでスタンプを集め、4つ集めた方には記念品をプレゼントします。皆様のご参加をお待ちしています。

こちらは、取材についてのご案内となります。取材をご希望の方は、事前に登録が必要となります。サミット専用ホームページのメディアページにあります参加登録フォームからお申込みいただきたいと思います。取材要項については、後日登録いただいたメールアドレスに送付させていただきます。

きますので、多くの皆様の取材をお願いします。

最後に、サミットを開催するに当たり、私は未来を担う子供たちのために、これから先も豊かな自然とともに人々が快適に住み続けることができる地球環境をパートナーとともに残していきたいという思いを持って事業を進めてきました。「さいたまサステナブル都市サミット～E-K I Z U N A グローバルサミット～」では、この思いの実現を目指しています。多くの皆様に国内外の先進事例や議論を見て、そして聞いていただき、「持続可能な都市の実現に向けて、今、私たちがすべきこと」を考え、そして行動する機会としていただければと思います。皆様の参加を心よりお待ちしております。

市長発表：議題3「さいたまサッカーフェスタ2022を開催します！」

続きまして、議題3「さいたまサッカーフェスタ2022を開催します！」について説明します。

さいたまサッカーフェスタは、Jリーグ、WEリーグの4つのチームが本市をホームタウンとしている特性を活かし、大宮アルディージャ、浦和レッズと共同で実施しています。「サッカーのまち さいたま」を象徴するサッカーの魅力を総合的に体験できるイベントです。新型コロナウイルス感染症の影響でこの2年は開催できませんでしたが、令和元年以来3年ぶりの開催となります。

イベントの概要についてご説明します。開催日時は来月、11月20日 日曜日10時から16時までです。会場は、大宮アルディージャ、アルディージャVENTUSのホームスタジアムであるNACK5スタジアム大宮です。入場は無料です。新型コロナウイルス感染症対策として、事前の申込みをお願いします。

まず、さいたまサッカーフェスタですが、市内ホームタウンクラブ等と連携したサッカーを活用したまちづくりの推進、「サッカーのまち さいたま」としてのサッカーの普及・発展、そして大宮アルディージャ、浦和レッズ両クラブの新たなファン層の獲得を目的として開催するものです。このイベントの開催を通じまして、市内外に向けて「サッカーのまち さいたま」をしっかりと発信していきます。

主なプログラムをご紹介します。まずは、恒例の「OBスペシャルマッチ」です。伝統の一戦として両クラブのOB選手たちが出場し、試合を20分ハーフで行います。それぞれのクラブで活躍してきた往年の名選手たちが繰り広げる白熱した試合をぜひ御覧ください。出場するOB選手は決まり次第、両クラブのホームページで発表していく予定です。

次に、「ピッチレベルde記念撮影イベント」をご紹介します。スタジアムのピッチの周りを歩きながら、選手目線でスタジアムの雰囲気を感じてもらいたいと考えています。途中で両クラブのOB選手、またマスコットのアルディやレディアに出会えるかもしれません。

このほかにどなたでも参加できるプログラムとして、スタジアム各所に置かれたスタンプを集めるとオリジナル缶バッジが手に入るスタンプラリー、またキックターゲットや「ふわふわ」で遊べるサッカーパークなど子供も楽しめる企画もご用意しています。

また、アルディージャのホームゲームと同様に、アルディージャグッズやスタジアムグルメも出店します。

ここからは、事前の応募が必要なプログラムについてご紹介します。応募の締切りが明日10月28日金曜日18時までになっているため、お早めにご応募いただきたいと思います。

初めに、「大宮vs浦和ドリームマッチ」をご紹介します。これは両クラブのOB選手、ゲストと、事前に募集した市民の皆様が一つのチームになり、8人制のウォーキングサッカーで対戦する市民参加によるさいたまダービーです。アルディージャ、レッズのOBと同じピッチに立ち、チームメイトとしてゲームを行えるのは大変貴重な機会になるのではないかと思います。

このほかに市内在住、在学の小学生を対象とした両クラブOB選手によるキッズサッカー教室や、ブラインドサッカー、ロービジョンフットサル、アンプティサッカーといった3種目の障がい者サッカー体験会、また天然芝のピッチに入り、ボールを蹴るなど自由に楽しめるピッチ開放イベントなどを行う予定です。

3年ぶりのサッカーフェスタを開催することで、サッカーファンのみならず、市民の皆様にサッカーをする、見る、学ぶ機会を提供できることを

大変うれしく思っています。

冒頭にも申し上げましたが、今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、事前の入場申込みをお願いしています。ご協力お願いします。専用サイトからサッカーフェスタ当日15時まで申込みできます。当日は、ぜひNACK5スタジアム大宮に足を運んでいただき、サッカーの魅力を多くの方に体験していただきたいと思います。

そして、最後に来月16日に開催する「さいたまシティカップ」についてです。浦和レッズとヨーロッパリーグ・チャンピオンのアイントラハト・フランクフルトが対戦する第12回さいたまシティカップの開催まで、いよいよあと20日になりました。

カタールワールドカップでは日本代表が初戦でドイツと戦うことになっています。そのちょうど1週間前に、ここさいたまでは日本とドイツの伝統と実力、人気を兼ね備えたクラブ同士が激突することになります。ぜひ多くの方に埼玉スタジアム2002に足を運んで、世界一流のプレーを生で見ていただきたいと思います。

そして、このさいたまシティカップ、さいたまサッカーフェスタの2つのイベントを通じて、さらなるサッカーのまちとして本市に関わる全ての人々が愛着と誇りを持ってもらえるよう、また新たなサッカーファンが生まれることを期待します。

私からの説明は以上です。

議題に関する質問

○ 埼玉新聞

市長からの説明についてマイクを使用して質問をお願いいたします。

幹事社ですけれども、埼玉新聞ですけれども、コロナの下げ止まりの傾向ということで、前週比約1.05と先ほどもおっしゃっていましたがけれども、この傾向について改めて見解をお願いいたします。

○ 市長

8月上旬からずっと減少傾向でしたので、大分皆さんの気持ちも含めて、今までの雰囲気から変わってきたという感じがあると思います。しかしながら、(先週から)1.05倍というほんの僅かではありますが、上昇が見られました。大分下げ止まってきたという感覚も持っています。これから秋、いろいろ行楽であったり、様々なイベントであったり、人と人とが触れ合う機会がこれまで以上に多くなると考えています。そうした中で、やはり

感染対策をしていただきながら楽しんでいただくということをぜひやっていただきたいと考えています。

○ 埼玉新聞 あとは、先日自宅療養中の10代の女性がコロナに感染した方が亡くなりましたけれども、改めて受け止めと、お医者さんの判断だということですからけれども、何か再発防止策とか改善点とか、検討されているようであれば教えてください。

○ 市長 このたび10代の女性の方がお亡くなりになられたこと、改めて心からご冥福をお祈り申し上げます。そして、ご遺族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げます。

お亡くなりになられた方については、受診し陽性判明後、診断した医療機関が協力医療機関として継続して健康観察を実施している中でお亡くなりになった事案です。若い世代は、一般的に新型コロナウイルス感染症の重症化リスクは低いと言われていますが、今回のように急な経過をたどる事例もあることを改めて認識しました。現状の制度の中では、こうした基礎疾患のない若者については自ら健康観察を行っていただくことになっていますが、体調が悪化した際には、県が設けた窓口で看護師など医療職に電話で相談することができますので、本市としてもこの相談窓口について自宅療養者の方々に周知を徹底するよう、改めて担当部局に指示をしたところです。

こうしたことが起こらないように、引き続き私たちもしっかりと努力を続けていきたいと考えています。

○ 埼玉新聞 ほかの新聞社、各社よろしくお祈りします。

埼玉新聞です。

ちなみに、シティカップのチケットの売れ行きはいかがでしょう。

○ 事務局 販売状況ですが、販売チケットの半分弱と伺っているところです。引き続き、県市内外から多くの方にスタジアムに足を運んでいただきまして、応援していただきたいと思っていますので、報道の方々におかれましては、引き続きご協力をお願いします。

以上でございます。

○ 埼玉新聞 半分弱というのは数字的にはどれぐらい。

○ 事務局 はっきりとした数字は、すみません、現在持ち合わせていませんので、

改めてご報告させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○ 時事通信 時事通信社と申します。

サステナブル都市サミット、グローバルサミットについてなのですが、E-K I Z U N Aサミットからの発展ということなんですけれども、海外都市を招いてさいたま市内でこうしたグローバルサミットとして行うのは初めてという理解でよかったですでしょうか。

○ 市長 そのとおりです。これまでは国内の都市、あるいは企業ということで開催していましたが、今回は先進的な取組をしている海外の都市の方々にも参加いただいて、国を越えて連携、あるいは情報共有を図っていくという趣旨です。

○ 時事通信 そうすると、このグローバルサミットを契機にして、今回海外の都市も招くということなのですが、今後連携をこのサミットを契機に深めていく、連携をしていくという理解でよかったですでしょうか。

○ 市長 今後また情報共有あるいは連携ということを進めていければと思います。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

ちょっとサミットに絡んで教えてください。自動運転というのがかなり技術的にも進んできて、乗り物だけではなくて道路整備も必要になってくると思います。他県なんかでも結構今かなり計画が進んでいるのですが、自動運転専用道路とか、あと自動運転の乗り物を使った市内での活用方法をどのようにお考えでしょうか。

○ 市長 さいたま市としても、これまで国土交通省のスマートシティのプロジェクトで、昨年だったと思いますが、さいたま新都心から大宮区役所までフランス製の自動運転のバスを走らせるという実証実験や、あるいは浦和美園では群馬大学で作られている自動運転のバスを活用して走らせるということをやらせていただいています。

今後、どういうスケジュール感でということまではまだ具体的に決まっていますが、これから自動運転という手段を活用して、この移動手段を確保していくということは、非常に重要なことだと思います。今後私たちとして進めているいわゆるM a a S、幾つかの公共機関をシームレスにつなげていくという考え方と、あとその中で自動運転のバスだとか公共交通をどのように活用していくのか、あるいは自動運転の車をどう活用して

いくのかについては、今後検討していく中で実施していくことになると思います。

いずれにしても、来年4月から(自動運転の)レベル4までについては許可をしていくというニュースを今日私も拝見してきましたが、これから自動運転の活用、まだ当面市街地では難しい部分もあるかもしれませんが、高速道路を含めていろいろな場所で、あるいは郊外で取り入れられてくる可能性が極めて高くなると思いますので、私たちとしても積極的に取り入れていきたいと考えています。

- **朝日新聞** 特に今地下鉄7号線の延伸で新しいまちづくりというのを市を挙げて計画されていますけれども、その中で今おっしゃった自動運転、あと自動運転専用道路なんかも結構ほかでも計画があるのですが、その辺についてはどのようにお考えですか。
- **市 長** 現時点では、まだ具体的にどの場所でもどのように取り組むかということはありませんが、今後新たな公共交通などとセットであったり、あるいは連携して活用していくという方向性は十分考えられると思っていますので、そういったことも含めて今後検討していきたいと考えています。
- **時事通信** 時事通信です。
重ねてグローバルサミットなのですけれども、ちょっと聞き漏らした点もあるかと思うのですけれども、これ一般の方の聴講というのも可能なのでしょうか。
- **市 長** サミットそのものは、自治体と企業が中心となっています。ただし、関連する附帯のイベントについては、一般の方々も参加いただくこともできるものもありますし、あと先ほど申し上げましたが、同時に配信しますので、一般の方も自由に御覧いただけます。
- **時事通信** そうすると、一般の方は基本的にサミットのトークセッションの内容に関しては、ユーチューブの配信を見るということですね。
- **市 長** はい、そのとおりです。
- **時事通信** 地球の環境問題とか持続可能な社会という部分に関しては、最終的には市民だったり、あるいは国民一人ひとりが取り組んでいくことかと思うんですけれども、このサミットをそうした市民だったり国民だったりにどういう視点で見てほしいかとか、あるいはこれを契機にどういう考えを持つ

てもらいたいというか、このサミットの狙いの部分を改めて伺えますでしょうか。

- 市長 今回は、会議そのものは、自治体とか企業という限られた方々を対象としていますが、やはりこれから脱炭素化を進めていくサステナブルな都市をつくっていくためには、市民の皆さん一人ひとりの力が大変大きいと思っています。私たちは、様々なそういった今抱えている課題を乗り越えながら、市民の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っていますので、市民の皆さんにとっても、その中で私たちが何ができるのだろうという視点で御覧いただきたいと思ひますし、また関連のイベントのほうにはご参加いただくことも可能ですので、そういった視点を持ちながら、ぜひサイドイベントにはお越しいただければと思ひます。特に自分事化をしていただく一つのきっかけにいただければと思ひます。

幹事社質問：2024年秋に現行の健康保険証を廃止しマイナンバーカードに統一するといった事実上の義務化について、対応する自治体としての受け止めと、高齢者などカードを取得していない人への対応について

- 埼玉新聞 よろしいですか。
- では、幹事社質問をします。政府は、健康保険証を2024年秋に廃止し、マイナンバーカードに統一すると発表しました。2年後にマイナンバーカードを事実上義務化するもので、対応する自治体としての受け止めをお願いします。また、高齢者ら、カードを取得していない人への今後の対応についても併せて考えをお示してください。

- 市長 それでは、幹事社のご質問にお答えします。
- 現行の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体化するという政府の方針、またマイナンバーカードを持たない人も保険診療が受けられるよう、資格証明書ではない制度を用意すると政府が明言したことは承知しています。

デジタル社会の基盤となるマイナンバーカードについては、ふだんから利用されているカード類と一体化させて利便性を高めて、公的な場面での利活用シーンを増やすこと自体は大変重要であると認識しています。

また一方で、健康保険証は市民が医療を受けるために重要なものです。マイナンバーカードとの一体化に当たっては、その過程で取り残される市民が発生することはあってはならないと考えています。政府においては、自治体をはじめとした各保険者等の意見をしっかりと聞きながら導入に向けた検討を進めてほしいと考えています。

総務省が公表している人口に対するマイナンバーカード交付枚数率は、令和4年9月末現在では本市は52.3%、政令指定都市で51.1%、全国で49.0%であり、本市はいずれも上回っている状況であります。政府がこれまで述べてきた「令和4年度末までにほぼ全国民に行き渡ること」については、まだ少し開きがあると考えていますので、このマイナンバーカードの普及促進も大きな課題となっています。

マイナンバーカードを取得するための申請方法について、高齢者など一人で申請するには難しい部分があることも認識していますので、こうした状況を少しでも私たち身近な自治体がお手伝いをさせていただければと思います。現在本市におきましては区役所あるいはさいたま新都心けやきひろば1階のマイナンバーカード特設交付センターにおいて無料で写真撮影を行って、マイナンバーカードの申請をサポートするという取組を実施しています。

マイナンバーカードの申請サポートについては、今後もさらにこういったお手伝いができる場を増やす等行いながら、できるだけ多くの方々にマイナンバーの取得をしていただけるように私たちとしても努力をしていきたいと考えています。

以上です。

幹事社質問に関する質問

- 埼玉新聞 さいたま市としては、令和4年度末には何%というふうに見ていらっしゃるのでしょうか。目標とかあるのでしょうか。
- 市長 目標ということ言えば、国が言っている、できるだけ全国民が、さいたま市で言えば全市民がということになります。ただその中で、先ほど言った大きな開きがありますが、ここ数か月大分増えてきて、これから12月末までマイナポイントが得られる時期が続いていますので、私たちとして

はそれをうまく活用しながら、できるだけ多くの市民の皆さんに取得していただけるように、引き続きサポートできる窓口を増やしたり、広報したり、あらゆる手だてを使いながらお勧めしていきたいと思えます。

○ 埼玉新聞 あと、医療機関にもそのシステムが必要だということですが、それもなかなか進んでいないようではございますが、その辺は市として何かフォローというか、できることはあるのでしょうか。

○ 市 長 医療機関への対応については、今国が直接的に各医師会等を通じて医療機関等に働きかけをしていただいていると伺っています。現時点では、私たちはそちらの推移を見守りながら、また私たちが何かすべきタイミングがあれば、協力していきたいと思っています。

○ 埼玉新聞 幹事社質問で、各社さん質問があればよろしくお願ひいたします。
ないようですので、それ以外の質問をお願ひいたします。

その他：新型コロナ疑い患者用の病床について

○ 毎日新聞 毎日新聞です。よろしくお願ひいたします。

発熱など新型コロナウイルス感染症と同じ症状を持つ疑い患者用の病床が、県内全域の話ではありますが、国の補助金が一部打ち切られたことが理由だとは思いますが、半減しました。第7波のほうでも、疑い患者の対応で長時間現場に留め置かれる救急車が県内各地が発生した事例、多々ありましたが、波が来なければ問題ないんでしょうけれども、第8波が来るかどうかはまだ不明の中、救急を預かる現場の市長としてどう考えるか、お聞かせください。

○ 市 長 まず、現状は、さいたま市内の場合には、今のところ大きな問題はないと伺っていますし、あと救急現場でも、現状の感染状況の中で特に大きな問題が発生しているわけではないと伺っています。

県としても、特に発熱患者用の外来については、制度的には感染拡大したときにはそういったものを維持していくような方向性もお話しされていと聞いていますし、私たちとしては引き続き国や県と連携をしながら、第8波に対応できる体制をしっかりとつくれるようにしていきたいと考えています。

いずれにしても、現時点では特に大きな問題にはなっていないと認識しています。

- **毎日新聞** 先ほども言いましたけれども、波が来なければ問題ないんでしょうが、波が来た場合、また第7波のように逼迫したりしないですかというお話なんです。
- **市 長** 現状としても、コロナ用の感染病床も含めて、第7波の状況から比べると減らしている状況下にあります。今後第8波になって、コロナあるいはインフルエンザの患者等が増えてきたときには、それに応じた体制をしっかりとつくっていく必要は当然あると思っていますので、そういったことも想定しながら、県としっかりと準備をしていきたいと考えています。
- **毎日新聞** 県と準備をしていきたいというのは、市はどんな準備をするんでしょうか。
- **事務局** 具体的には、病床の調整をする入院調整本部が県です。一方で、その間に入るのが保健所と救急ということになりますので、その間の情報共有であるとか、市長からもご説明あったように、疑い病床と、それ以外の病床も含めて、その運用についてきちっと連携をして、適切にできるような形で検討してまいりたいと考えています。
- **毎日新聞** コロナ病床の話ではなく、疑い病床の救急体制の話ではあるのですが、もう半減しているんですね、本当にこの半月で。予算がカットされた時点で、いきなりぱっと下がりました。これをお金なしで持っていくように今後県のほうは努力するとは言っていますが、市のほうとして先ほど準備するということは、県の努力しているのを何か支援するなり、一緒にやるなりなんなりするものなんでしょうか。
- **事務局** 再度で恐縮ですが、疑い病床、その他の病床も含めて、救急患者をどのように入れていくかについては、患者が増えてくれば、また医療機関とも相談するというように県からも聞いていますので、我々としてはきちっとその辺りの情報共有をしていくということです。
- **毎日新聞** 医療機関と相談するのは県の役割なのですか。
- **事務局** 県が、病床確保については医療機関と直接相談しながら病床の確保をいただいているという状況です。
- **毎日新聞** コロナ病床に関しては県の仕事だとは思いますが、この疑い用、救急用とした場合、これは県だけの仕事になるのかなと思うんですが。
- **事務局** 現状疑い病床、コロナ病床を含めて、一体的に県でスキームを考えて、

ご検討いただいて、調整いただいているという状況です。

- 市長 これまでも、基本的には県で病床の確保等、方針等々決めて実施していただいているわけですが、さいたま市も独自に医師会等をお願いしたり、様々なご協力を要請したり、あるいは支援策を取ったりということもやってきていますので、今後第8波に向けてそういった状況があれば、当然そういったことも含めて県と連携を取りながら、総合的に市としてやるべき役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。

- 毎日新聞 ありがとうございます。

その他：旧統一教会について

- 朝日新聞 朝日新聞です。

旧統一教会の関係で、ピースロードの表敬について、先週ようやく市議の方お一人がピースロードの表敬に参加されていたということを発表されました。その際に、市のほうが公表されている実行委員会側が出されたリスト、資料、黒塗りにされた資料、その中に含まれているということだったんですけれども、その黒塗りにした市の対応について、そういう連絡を受けていないというふうにおっしゃっていました。市は市議会の答弁で、黒塗りの資料を作成する際に、各実行委員の方に確認を取ったとおっしゃっていましたが、改めて市が黒塗りをつくられた、資料をつくられたときの経緯を教えてください。

- 市長 経緯ですか。

- 朝日新聞 確認をしたかどうかということ。

- 市長 確認をしたかどうかということ、事実関係ですね。

お知らせをしたと聞いています。詳細がもし必要であれば、後ほど担当からまたお話ししたいと思います。

- 朝日新聞 ということは、要は齟齬が出てきているのですけれども、市としてはおっしゃっていることは間違っていないということで、これまでどおりの。

- 市長 ちょっと記憶違いもあるかもしれませんが、どういうふうに議員さんがお話しされたか私たちも分かりませんので、何とも言えませんが、市としては確認をしたということです。

- 朝日新聞 黒塗りの資料を公表されたということですね。

- 市長 はい、そういうことです。

その他：シェアサイクルについて

○ 朝日新聞 あとすみません、もう一件です。サステナブル関係なんですけれども、今市内で進めていらっしゃるシェアサイクルの実証実験、これもう3年ほど進められているのですが、開始以来結構利用頻度も上がっていて、駐輪場の設置もかなり進んでいます。これかなりサステナブルに有効な手段だと思うんですけれども、市長として今後、さっき自動運転とか、いろいろなE-K I Z U N Aの取組されているのですが、シェアサイクルについて今後どういう展開を考えていらっしゃるか、教えてください。

○ 市 長 シェアサイクルについても、民間の事業者と連携して、市はほとんど負担なしで、市の持っている公共施設の土地の一部をお貸しして、ステーションを増やしていただいています。正確な数は、後ほど必要があればお知らせしますが、400か所弱、三百数十か所サイクルステーションが整備をされていて、年々この活用率も上がっています。シェアサイクルは、たくさんステーションがあつて、細切れで使えたり、自分が必要なときだけ使えるということが必要だと思っていますので、これまで民間事業者と連携して、非常にいい環境ができたと思っています。

また、併せてシェアサイクルだけでなく、電動のスクーターであるとか小型の電気自動車、こういったマルチモビリティのシェアリングも実証実験を始めているところです。これからは、移動手段の中で脱炭素化を図っていくこともさいたま市にとっては非常に大きなテーマですので、シェアサイクルを含めて、マルチモビリティのシェアリングなど活用しながら、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

また、より多く、幅広くシェアサイクルの活用についても呼びかけていきたいと思っています。

○ 朝日新聞 当面は実証実験でということですかね。

○ 市 長 シェアサイクル自体は、もう実装しています。全国でも有数のシェアサイクルのステーションがある都市になっていますし、またそのシェアサイクルがどのように活用していただけるかというビッグデータも活用しながら、どう移動しやすく環境に優しい体制をつくれるかということも併せて検討しています。

その他：旧統一教会について

- 埼玉新聞 旧統一教会の関係の先ほどの質問ですけれども、お一人ひとりに確認したというのは、お一人ひとりに電話して確認したでよろしいのですか。その辺がちょっと、中島議員はかかってきていないという表現で繰り返し否定されたので、市の答弁が違うという言い方をされているので、その辺確認したいのですけれども。
- 市長 その議員がどのように発言されたか、私たち報道のレベルでしか知りませんが、私たちとしては電話で連絡をしたと担当からは聞いています。
- 埼玉新聞 ご本人に電話したんですね。
- 市長 そのように聞いています。詳細は、必要があればまた後ほど(担当からお話します)ということ。
- 埼玉新聞 それで、現在、先ほども出ましたけれども、黒塗りの方が自ら明らかにされたのがお一人なんですけれども、現状についてはどういうふう to 受け止めていらっしゃいますか。
- 市長 いずれにしても、今後政治家としてそれぞれご判断いただいて、公表することについてやっていただければと思っています。

その他：若田光一宇宙飛行士との交信イベントについて

- 埼玉新聞 先日若田光一さんとの交信イベントありましたけれども、20分でしたけれども、市長の受け止めをお願いいたします。
- 市長 宇宙にいる若田さんと地球にいる子供たちが、直接お話できる体験ができたということは大変大きな価値があると思っています。
さいたま市は、教育委員会で、この宇宙プロジェクトという、JAXAへ行っていろいろ学ぶ機会とか、第2、第3の若田光一さんが生まれればという思いでプログラムをやらせていただいています。今回のプログラムでその子どもたちの中にも宇宙飛行士になりたいというような発言をされていた子どもたちもいたと記憶していますが、そういった子どもたちの夢につながるような大変すばらしい経験をさせていただいたということは本当にありがたいことだと思っています。
若田光一さん、そしてJAXAの皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

その他：さいたまクリテリウムへの期待について

- 読売新聞 読売新聞と申します。

さいたまクリテリウムが11月6日に近づいてきていまして、出場する選手も先日発表になりました。いろいろ関連のイベントも地域で行われる予定になっていまして、盛り上がりがある程度期待はできるところかなと思っております。

市長として改めて、近づいてきたさいたまクリテリウムへの期待を改めてお伺いできますでしょうか。

- 市長 発表するときにもお話ししましたが、とにかく3年ぶりに開催ができるということと、ツール・ド・フランスの本大会で優勝した、マイヨ・ジョーヌを着たまさに総合優勝したチャンピオンが、このさいたま新都心で、たくさんの市民や観覧者の皆さんの前で素晴らしい走りを見せてくれるということに大変今から胸を躍らせているところです。

コロナ禍ということで、これまでの第7回までの大会とはちょっと観戦の仕方など窮屈な部分もあるかもしれませんが、ぜひ本場の素晴らしい一流の選手たちの走りを、ぜひ間近で多くの皆さんに見ていただきたいと思っております。ぜひ11月6日にはさいたま新都心にお越しいただきたいと思っております。

- 埼玉新聞 どうもありがとうございました。

- 進行 それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、今回の開催は11月11日金曜日、午後1時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時28分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。